

保護者の皆様

## 平成 30 年度全国学力・学習状況調査の結果(御浜町)と今後の取組

御浜町教育委員会

平成 30 年 4 月 17 日(火)に実施しました「平成 30 年度全国学力・学習状況調査」(以下、全国学調とする)における結果の概要は以下の通りです。

### 1. 調査結果概要

#### (1)調査の目的

- ①義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ②学校における児童生徒の教育指導の充実や学習状況を改善等に役立てる。
- ③上記の取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

#### (2)調査実施日

- ・平成 30 年 4 月 17 日(火)

#### (3)調査対象(御浜町)

- ・小学校第 6 学年の児童 72 人、中学校第 3 学年の生徒 74 人(理科のみ 75 人)

#### (4)実施内容

##### ①教科に関する調査

- ・小学校 6 年生:国語 A、国語 B、算数 A、算数 B、理科
- ・中学校 3 年生:国語 A、国語 B、数学 A、数学 B、理科

※A:主に「知識」に関する問題 B:主に「活用」に関する問題

##### ②生活習慣や学習習慣等に関する質問紙調査

- ・児童生徒に対する調査・学校に対する調査

### 2. 教科に関する調査の結果

平成 30 年度の結果は、小学校では国語 A で全国平均を上回る結果となり、昨年度課題としていた A 問題の「知識」に関する問題への改善が図られた。今後はさらなる改善に向けて、新学習指導要領の柱である『主体的・対話的で深い学び』を充実させるべく、「授業力向上支援事業」として町全体で取り組んでいるペア学習やグループ学習による取組を進め、B 問題の「活用」に関する問題の課題改善に向けた取組を進める必要がある。

中学校については、すべての教科で全国平均を若干下回る結果となったが、国語 A、国語 B、理科においては、前回調査時から全国平均差を縮めており改善傾向が進んだ。また、平成 27 年度調査時(現中学 3 年生が当時小学 6 年生)と比較すると、国語においては全国平均との差を縮め、特に国語 A では全国との差を 5 ポイント以上縮めており改善が図られている。一方で数学、理科において、全国平均との差が開き、今後理数系の問題に対して課題克服への取組を進める必要がある。

## (1)小学校

- ①国語 A では、昨年度課題であった「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うこと」において、県や全国の平均正答率を上回り、ただ単に漢字を覚えるのではなく、意味や使い方を考えながら覚えるといった取組の成果が表れた。しかしながら、「登場人物の心情について、情景描写を基に捉える」の正答率が低く課題が残った。国語 B については、「目的に応じて、複数の本や文章などを選んで読む」や「目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら読む」といった『読む能力』の正答率が高かった一方で、「推薦するためには、他のものと比較して書くことで、よさが伝わることを捉える」といった『書く能力』の正答率が低かった。
- ②算数 A では、円周率を用いた問題での正答率が比較的高く、「小数の除法の意味について理解している」や「単位量当たりの大きさを求める除法の式と商の意味を理解している」といった課題では正答率が低かった。算数 B では、「メモの情報とグラフを関連付け、総数や変化に着目していることを解釈し、それを記述できる」ことや「棒グラフと帯グラフから読み取ることができることを、適切に判断することができる」などの記述式問題の正答率が低かった。
- ③理科では、「より妥当な考えをつくりだすために、実験結果を基に分析して考察し、その内容を記述できる」や「実験結果から言えることだけに言及した内容に改善し、その内容を記述できる」といった選んだ理由や実験を通して導き出す結論について書くといった問題の正答率が低く、記述式問題に課題がある。学習指導要領の領域では、特に「物質」に課題がみられる。

## (2)中学校

- ①国語 A では「文脈に即して漢字を正しく書く」の正答率が全国平均より高かった一方で、「歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読む」の正答率が特に低かった。国語 B では、「ロボットに期待することを述べて発表をまとめる際の話の進め方として適切なものを選択する」といった「全体と部分との関係に注意して相手の反応を踏まえながら話す」ことに課題がある。学習指導要領の領域としては、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の全国平均正答率より高かった。
- ②数学 A では、『図形』領域の正答率が県、全国を若干上回った。しかし、「 $2 \times (-5)^2$  を計算する」といった「指数を含む正の数と負の数の計算」や「等式  $S = \frac{1}{2}ah$  を、 $a$  について解く」といった「目的に応じた式の変形」に課題がみられた。数学 B では、「A 駅からの道のりが 6 km の地点において、列車アが通ってから列車エが通るまでの時間をグラフから求める方法を説明する」といった「問題解決の方法を数学的に説明すること」は正答率が高かった。しかし、「情報から必要な情報を選択し、的確に処理すること」の正答率が低かった。
- ③理科では、学習指導要領の領域としては、「化学的領域」の正答率が全国平均より高く、「物理的領域」と「地学的領域」に課題がみられた。「発熱パックに入っているアルミニウムが水の温度変化に関係していることを指摘できる」の正答率が全国平均より高く、一方で「電流計は回路に直列に接続するという技能及び電流計の電気用図記号の知識を身に付けている」や「地震の揺れの強さが震度であること、S 波による揺れが主要動であることの知識を身に付けている」といった、自然事象についての知識・理解に特に課題がみられた。

(3)教科に関する調査の平均正答率

小学校

	国語 A	国語 B	算数 A	算数 B	理科
御浜町	72%	53%	63%	48%	57%
三重県	70%	54%	63%	50%	59%
全 国	70.7%	54.7%	63.5%	51.5%	60.3%

中学校

	国語 A	国語 B	数学 A	数学 B	理科
御浜町	76%	61%	66%	46%	65%
三重県	75%	60%	67%	46%	66%
全 国	76.1%	61.2%	66.1%	46.9%	66.1%

※全国的な学力調査の今後の改善方策について（まとめ）（平成 29 年 3 月 29 日付文科省）に「序列化や過度な競争を招かないよう、都道府県・指定都市の一覧での公表は整数値で行う」とされ、昨年度より市町教育委員会、三重県の正答率は整数値で通知を受けています。

3. 生活習慣や学習習慣等についての調査結果

(1)小学校児童質問紙調査より

「している」「どちらかといえばしている」と回答（肯定的回答）した割合

○回答の割合が全国平均を 10P 以上、上回っている項目

質 問 事 項	御浜町	全国
自分には、よいところがあると思いますか	94.4 %	84.0 %
理科の授業で、自分の考えをまわりの人に説明したり発表したりしていますか	65.2 %	54.5 %

○昨年度の全国平均の差から 10P 以上改善された項目

質 問 事 項	H30	H29
毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか	+0.8 %	-9.2 %
家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか	+3.2 %	-14.5 %
家で、学校の授業の予習・復習をしていますか	+4.1 %	-15.1 %
家の人（兄弟姉妹を除く）と学校での出来事について話をしますか	+1.5 %	-8.9 %

●回答の割合が全国平均を 10P 以上下回っている項目

質 問 事 項	御浜町	全国
調査問題の解答時間は十分でしたか（理科）	75.0 %	90.1 %

●昨年度の全国平均の差から 10P 以上下がった項目

質 問 事 項	H30	H29
算数の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか	-6.7 %	+3.7 %
学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか	-2.7 %	+8.3 %

## (2)中学校生徒質問紙調査より

「している」「どちらかといえばしている」と回答（肯定的回答）した割合

○回答の割合が全国平均を 10P 以上、上回っている項目

質 問 事 項	御浜町	全国
1, 2年生までに受けた授業や課外活動で地域のことを調べたり, 地域の人と関わったりする機会があったと思いますか	86.6 %	68.7 %
地域の大人（学校や塾・習い事の先生を除く）に勉強やスポーツを教えてもらったり, 一緒に遊んだりすることがありますか	38.7 %	25.5 %
数学の授業で公式やきまりを習うとき, その根拠を理解するようにしていますか	84.0 %	70.4 %
理科の授業では, 理科室で観察や実験をどのくらい行いましたか	98.6 %	87.1 %

○昨年度の全国平均の差から 10P 以上改善された項目

質 問 事 項	H30	H29
家で予習・復習やテスト勉強などの自学自習において, 教科書を使いながら学習していますか	+3.4 %	-7.8 %
地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか	+1.3 %	-9.0 %
調査問題の解答時間は十分でしたか（国語B）	-4.9 %	-15.6 %

●回答の割合が全国平均を 10P 以上、下回っている項目

質 問 事 項	御浜町	全国
数学の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか	60.0 %	80.6 %

●昨年度の全国平均の差から、5ポイント以上下がった項目

質 問 事 項	H30	H29
自分には, よいところがあると思いますか	-5.4 %	+1.2 %

## 4. 考察 【 】は全国平均値

児童生徒質問紙調査結果より、「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む）」について、『1時間以上』と答えた小学生が 61.2%【66.2%】、中学生が 38.6%【70.6%】で全国平均との差は、小学生が-5.0ポイントに対して、中学生が-32.0ポイントと差が大きい。小学生は、昨年度の全国平均との差を-20.2ポイントから-5.0ポイントと大きく改善されている一方、中学生は-2.5ポイントから-32.0ポイントと大きく課題を残した。

「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書を読みますか（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）」について、小学生は全国や県平均と比べると『1時間以上』読書をしている割合は低い、『全くしない』という割合も低い。（『1時間まで』の読書割合が最も高い）。このことから、普段の日は短時間ではあるが、読書をしている児童が多く、少しずつ本を読む習慣が身についてきているのではないかと考えられる。中学生では、『2時間以上』の読書をしている割合が全国や県より若干高く、『1時間まで』の読書割合も高い。しかし、『全くしない』という割合がかなり高い。このことから、日常的に読書をしている生徒とそうでない生徒との2極化が考えられる。

「放課後に何をして過ごすことが多いですか」では、小学生は『テレビ・インターネット』と答えた割合が最も高く、全国よりも若干上回っている。中学生は『部活動』と『テレビ・インターネット』と答えた割合が高い。週末の過ごし方としては、小学生は『友だちと遊んでいる』と回答した割合が最も高く、『家で勉強や読書をしている』は全国平均を上回り、『家族と過ごしている』は全国平均より 10 ポイント以上低かった。中学生は、『部活動』が 88.0%、『テレビ・インターネット』が 89.3%と割合が高く、特に部活動は全国より+18.6 ポイントと大きく上回っている。

小学生も中学生も共に解答時間が不十分（足りない）と感じている割合が高く、解く速さを含め、調査時間の使い方について改善を図る必要がある。（全国平均との差：小学生+7.7 ポイント、中学生+5.2 ポイント）

学校質問紙調査結果より、近隣等の小学校と「教育課程に関する共通の取組を進める」、「合同の研修を行う」、「全国学調の分析結果について、成果と課題を共有する」といった小中の連携についてや、「地域や社会で起こっている問題や出来事を学習の題材として取り扱う」、「地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする機会の設定を行う」などといった時事的な事柄や地域との連携についての質問事項が合わせて 14 項目ある中で、町内すべての学校で肯定的な回答（100%）をした項目が 3 項目あった。このことより、授業公開等を活用した小中連携を積極的に進めるとともに、学校運営協議会を活用した保護者・地域とのつながりを大切にした取組をさらに進め、地域とともにある学校づくりに努めていく必要がある。

## 5. 今後の取組・改善方策

### 【御浜町教育委員会】

- (1)調査結果等を活用し、指導方法の検証・改善を図る。
- (2)各学校での校内研修等へ指導主事等を派遣し、指導方法の改善を進めます。また、情報通信機器を活用し、授業改善に努める。
- (3)「御浜町授業力向上支援事業」により、各学校の先進校視察や、大学教授等の外部講師を招聘した授業研究を行い、教員の授業力向上を支援する。
- (4)全国学力・学習状況調査の結果から課題を克服するため、県の授業改善サイクル支援ネットを活用したワークシートを授業や家庭学習で活用できるように支援する。
- (5)三重県教育委員会が実施する「みえスタディ・チェック」に全校で取り組み、授業改善につなげる。
- (6)「みえの学力向上県民運動」に係る生活習慣等チェックシートを活用した集中取組の実施や、「家庭読書の日」（毎月第3日曜日）を周知するとともに、学校図書の実充を図り、学校・家庭と連携した読書活動を支援する。
- (7)地域の人材・施設の活用にむけて、学校運営協議会や学校評議員との連携を図る。

### 【各小中学校】

各校独自に調査結果を分析し、課題や成果を明らかにし、全教職員がその課題を共有し、改善に向けた具体的な取組を行っていきます。それぞれの結果については、後日、各校より保護者の皆様に報告があります。